

東京圏に住む人々の地方とのつながり・縁についてのアンケート調査

－東京圏に住む人の約6割が東京圏以外の地域とつながり・縁を持っている－

大正大学地域構想研究所は、東京圏に住む人の東京圏以外の地域とのつながりや縁について把握するため、インターネット調査を実施しました。その結果、東京圏に住む人の約6割が、東京圏以外の地域が出身地や元転勤先であったり、東京圏以外の地域に年1回以上訪れる場所があったりするなど、東京圏以外の地域と何らかのつながり・縁を持っていることが明らかになりました。こうしたつながりや縁はいわゆる関係人口を創出している場合も多く、地方創生にも深く関わるものと考えます。

大正大学地域構想研究所では地域と連携し社会に貢献するため様々な取組を実施しています。本調査で確認できた、東京圏に住む人々の地方との様々なつながりや縁を地方創生につなげるための研究や取組をさらに進めて参りたいと考えています。

【調査結果概要】

- 調査結果から、東京圏^(注1)に住む人の60.2%は東京圏以外の地域とつながり・縁があることがわかった。本調査において、「つながり・縁」は具体的には出身地、大学等進学先、転勤先、二拠点居住地、別荘地、頻繁に(年1回以上)訪れる場所、特産物購入先としている。これらのつながり・縁がいわゆる関係人口^(注2)を創出している場合も多いと考えられる。男女別にみたところ、男性の65.5%、女性の51.3%は、東京圏以外とつながり・縁があることがわかった。年代別にみたところ、東京圏以外とつながり・縁がある人の割合は、65歳以上で77.3%と最も多く、年代が若くなるにつれて少なくなる傾向にあり、25歳～34歳では52.5%であった。

^(注1)「東京圏」は、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県とし、「東京圏以外」はそれ以外の都道府県とした。

^(注2)「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々である。参考資料にあるとおり、関係人口の創出・拡大は、2019年12月に策定された第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても「地方とのつながりの構築」という基本目標を達成するための主な施策として挙げられている。

- 東京圏に住む人に「出身地(中学校卒業時の居住地)はどちらですか」と尋ねたところ、東京都が最多で、東京圏の都県が上位を占めた。出身地が東京圏以外の割合は26.1%であった。
- 東京圏に住む人に「転勤で3ヶ月以上居住した場所がありますか」と尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合が28.5%であった。「はい」と回答した人にその場所を聞いたところ、東京都が最も多く、次いで神奈川県、埼玉県、大阪府、千葉県、海外が続いた。転勤した場所の東京圏以外の割合は59.1%であった。

- 親戚訪問、出張など仕事のつながり、観光、スポーツ大会などイベント、ボランティア活動、その他の理由それぞれについて、東京圏に住む人に「あなたには頻繁に(年に1回以上)訪れる場所がありますか」と聞いたところ、親戚訪問で訪れる場所がある人が40.2%で最も多く、次いで観光(23.6%)、出張など仕事のつながり(12.2%)が続いた。頻繁に訪れる理由それぞれについて、訪れる場所を聞き、その結果を都道府県別に合計したところ、東京都を挙げた人が最も多く、次いで神奈川県、千葉県、埼玉県と東京圏の都県が続いた。東京圏の都県に次いで、静岡県、大阪府、長野県、北海道が多かった。訪問の理由をみると、東京圏の都県では、いずれも親戚訪問が最多となっている。上位10位都道府県のうち、東京圏以外の道府県は、大阪府のみが出張など仕事のつながりで訪れる人が最も多いが、その他の道府県はいずれも観光を理由として訪れる人が最多となっている。頻繁に訪れる場所の東京圏以外の割合は、親戚訪問では54.9%、観光では71.9%、出張など仕事のつながりでは74.0%、スポーツ大会などイベントでは29.9%であった。
- 東京圏に住む人に「毎年特産物を購入している地域がありますか」と尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合が11.8%であった。「はい」と回答した人にその場所を聞いたところ、北海道が最も多く、次いで長野県、山梨県、千葉県、山形県が続いた。特産物としては、果物や海産物が多かった。毎年特産物を購入している場所の東京圏以外の割合は91.1%であった。
- 東京圏に住む人に「将来移住したいという場所がありますか」と単なる移住の希望の有無ではなく、移住を希望する具体的な場所の有無について尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合が12.8%であった。「はい」と回答した人にその場所を聞いたところ、海外が最も多く、次いで沖縄県、北海道、東京都が続いた。将来移住したい場所の東京圏以外の割合は68.1%であった。将来移住したい場所を東京圏以外の地域と回答した人の割合は全体の8.8%であった。将来移住したい場所を東京圏以外の地域と回答した割合を、東京圏以外の地域とつながり・縁がある人とない人とで比較したところ、つながり・縁がある人は12.7%、つながり・縁がない人は2.9%と1割程度差があった。

【調査概要】

- ・調査目的: 東京圏に住む人の東京圏以外の地域とのつながりや縁について把握すること
- ・調査対象: 東京圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)在住者
- ・回収サンプル数: 943人(男性592人、女性351人)
- ・調査時期: 2019年12月
- ・調査方法: インターネット調査(NTTコムオンライン・マーケティング・ソリューション(株)委託)

【本調査についての照会先】

大正大学地域構想研究所プロジェクトつなぐ事務局
塚崎裕子・木村文哉
(電話) 03(5944)5482
(ファックス)03(5934)3055

【調査結果】

1. 東京圏以外とのつながり・縁

調査結果から、東京圏に住む人の60.2%は東京圏以外の地域とつながり・縁があることがわかった(図1)。本調査において、「つながり・縁」は具体的には出身地、大学等進学先、転勤先、二拠点居住地、別荘地、頻繁に(年1回以上)訪れる場所、特産物購入先としている。東京圏以外の地域とのつながり・縁の数の平均は一人当たり1.66であった。これらのつながり・縁がいわゆる関係人口を創出している場合も多いと考えられる。男女別にみたところ、男性は65.5%、女性は51.3%が東京圏以外の地域とつながり・縁があることがわかった(図2、3)。年代別にみたところ、東京圏以外の地域とつながり・縁がある人の割合は、65歳以上で77.3%と最も多く、年代が若くなるにつれて少なくなる傾向にあり、25歳～34歳では52.5%であった(図4)。

図1 東京圏以外につながり・縁があるか

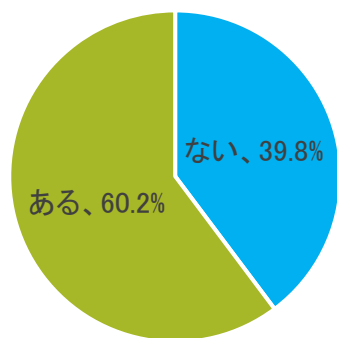


図2 東京圏以外につながり・縁があるか(男性)

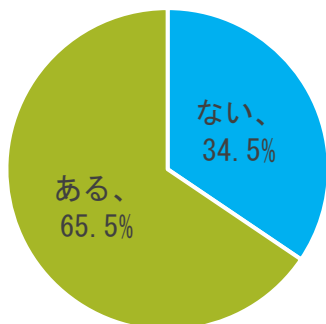


図3 東京圏以外につながり・縁があるか(女性)

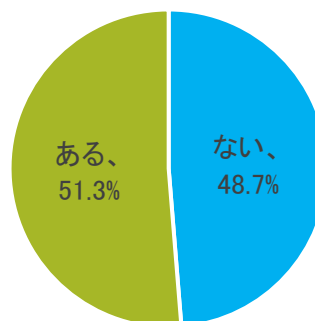
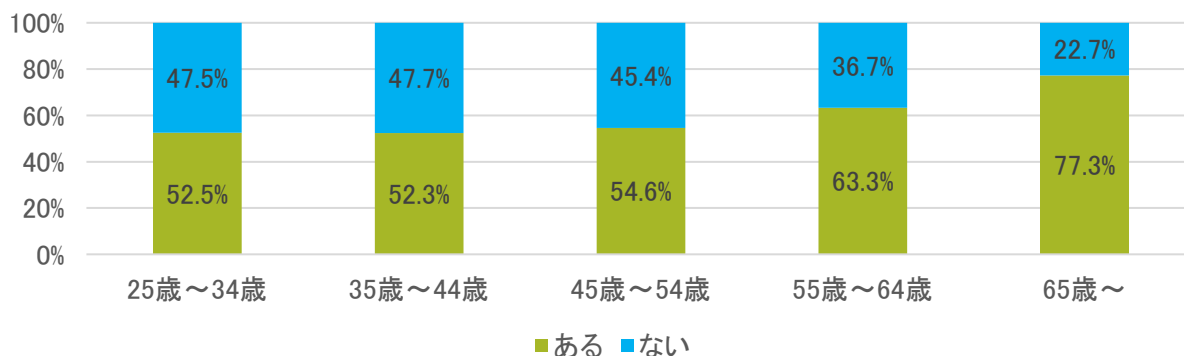
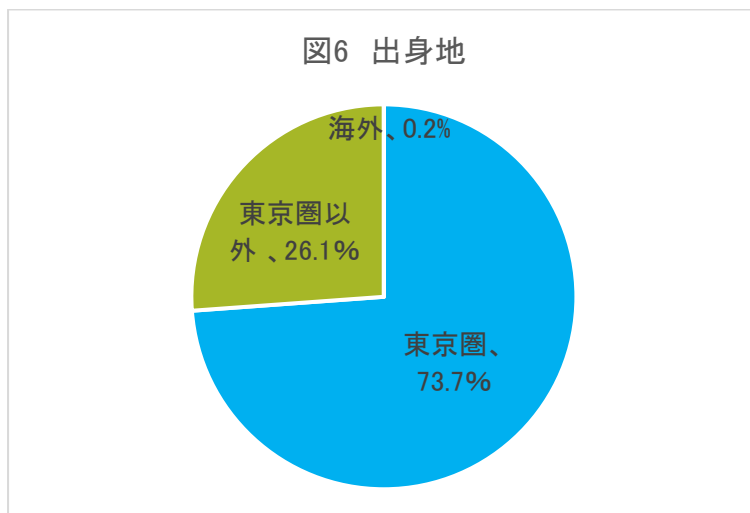
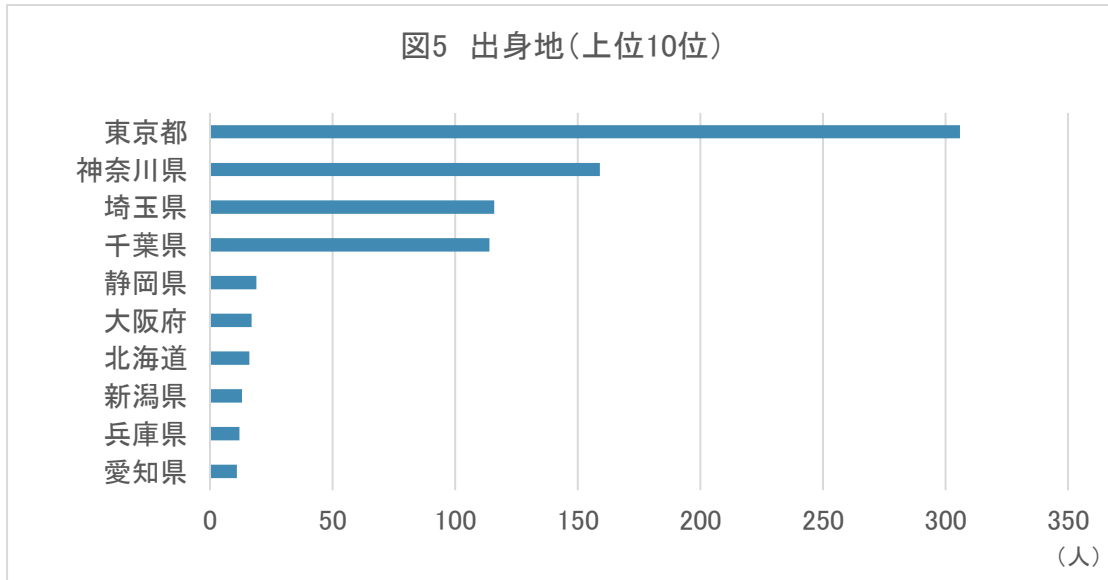


図4 東京圏以外につながり・縁があるか(年代別)



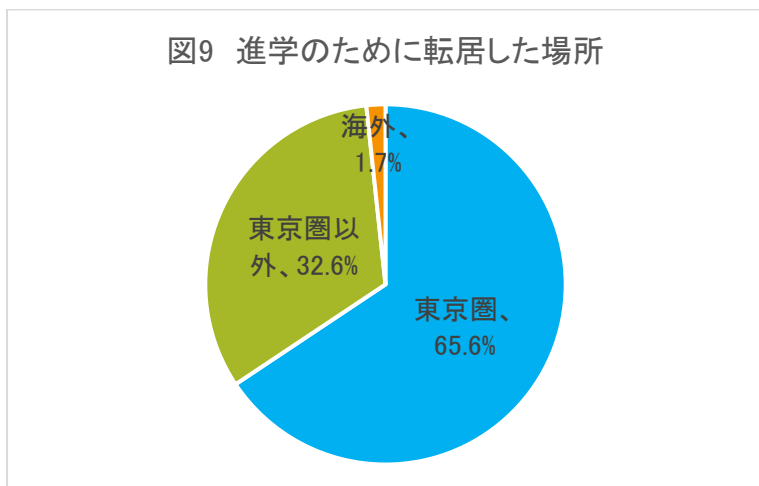
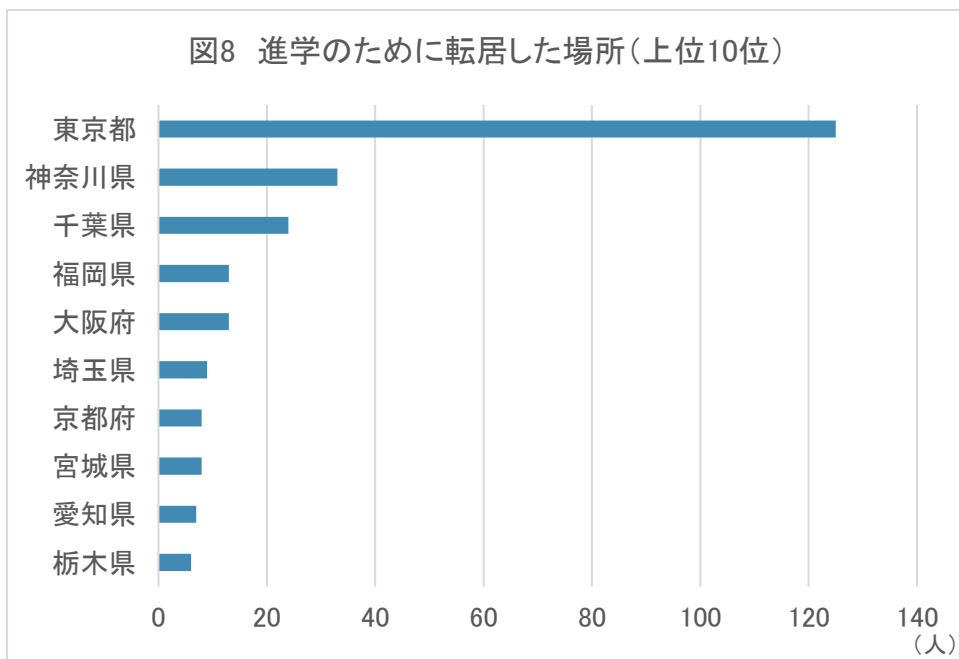
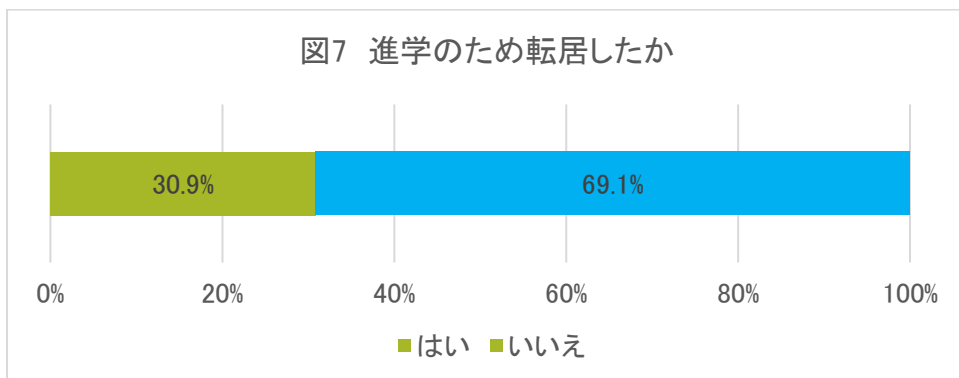
2. 出身地

東京圏に住む人に「出身地(中学校卒業時の居住地)はどちらですか」と尋ねたところ、東京都が306人と最多で、神奈川県(159人)、埼玉県(116人)、千葉県(114人)が続き、東京圏の都県が上位を占めた。東京圏以外では、静岡県(19人)、大阪府(17人)、北海道(16人)が多かった(図5)。出身地を東京圏、東京圏以外、海外と分けて割合をみると、東京圏は73.7%、東京圏以外は26.1%、海外は0.2%であった(図6)。



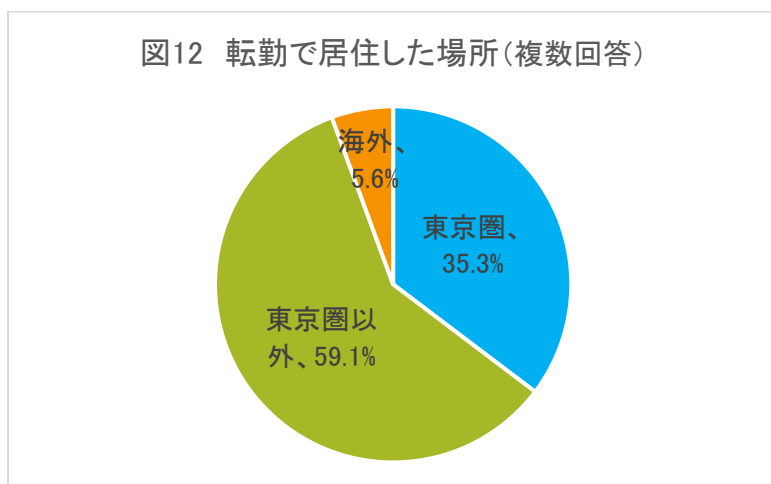
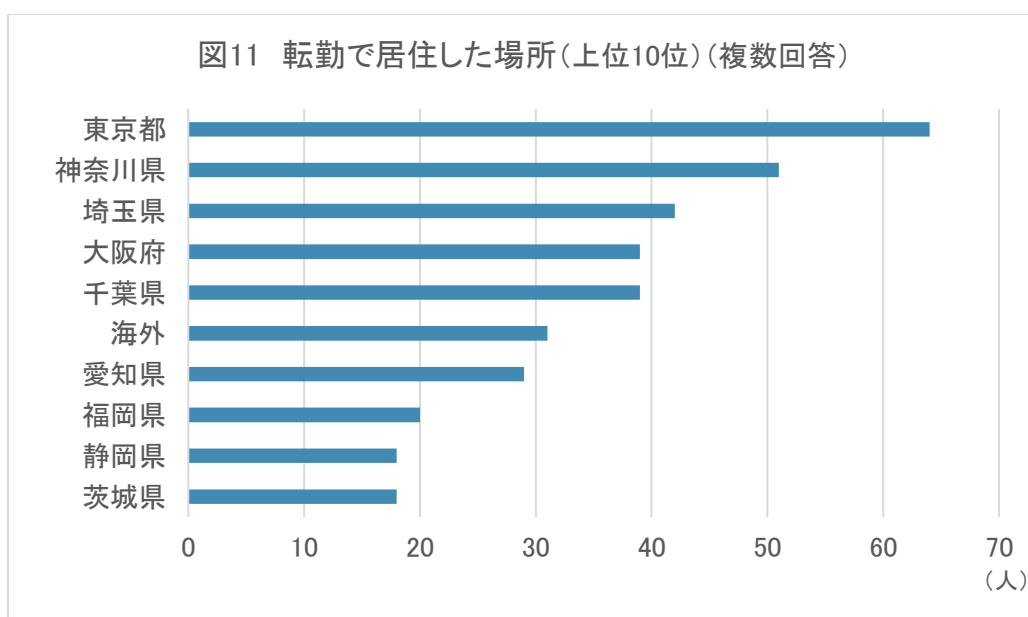
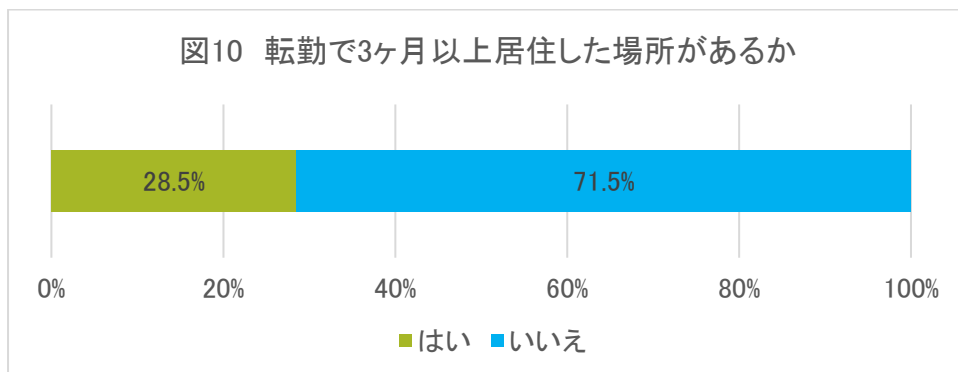
3. 進学のための転居

東京圏に住む人に「大学や専門学校に進学するため、それまで住んでいた場所から離れた場所に居住しましたか」と尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合が30.9%であった(図7)。「はい」と回答した人にその場所を聞いたところ、東京都が125人で最も多く、次いで神奈川県(33人)、千葉県(24人)、福岡県(13人)、大阪府(13人)が続いた(図8)。回答があった進学のために転居した場所を東京圏、東京圏以外、海外に分けて割合をみると、東京圏は65.6%、東京圏以外は32.6%、海外は1.7%であった(図9)。



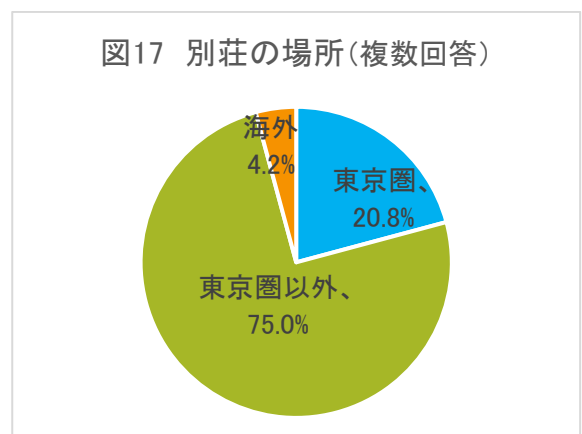
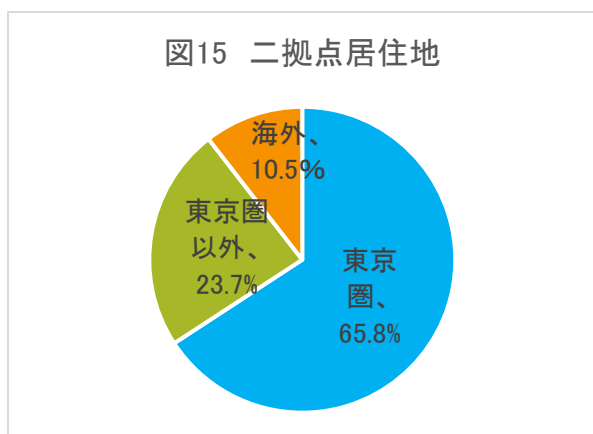
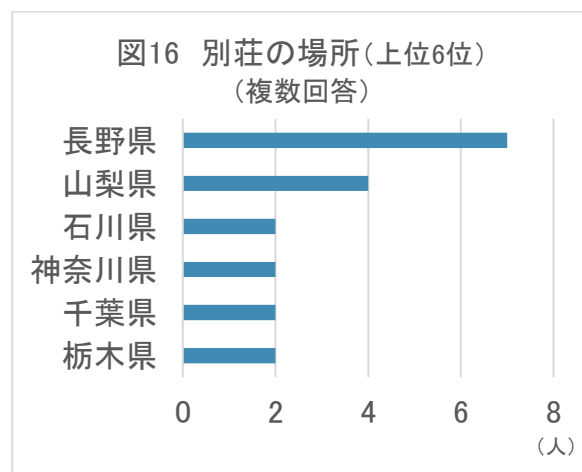
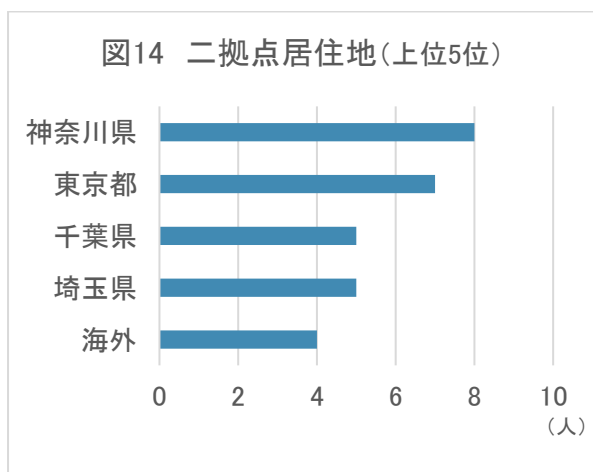
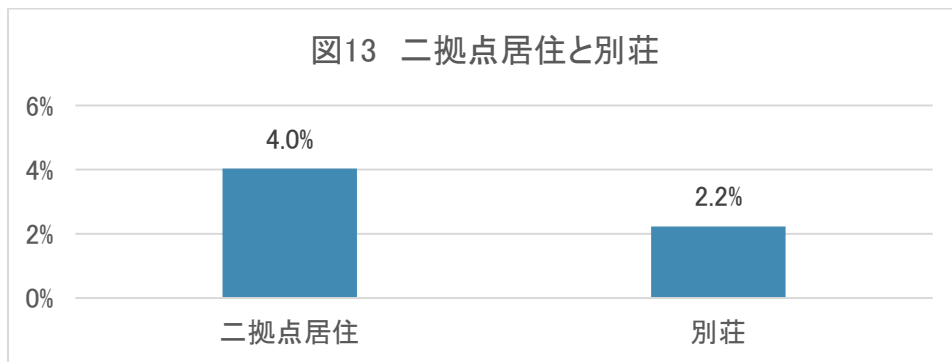
4. 転勤で居住した場所

東京圏に住む人に「転勤で3ヶ月以上居住した場所がありますか」と尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合が28.5%であった(図10)。「はい」と回答した人にその場所を聞いたところ、東京都が64人で最も多く、次いで神奈川県(51人)、埼玉県(42人)、大阪府(39人)、千葉県(39人)、海外(31人)が続く(図11)、東京圏内の移動が多いことがわかった。回答があった転勤した場所を東京圏、東京圏以外、海外に分けて割合をみると、東京圏が35.3%、東京圏以外が59.1%、海外が5.6%であった(図12)。



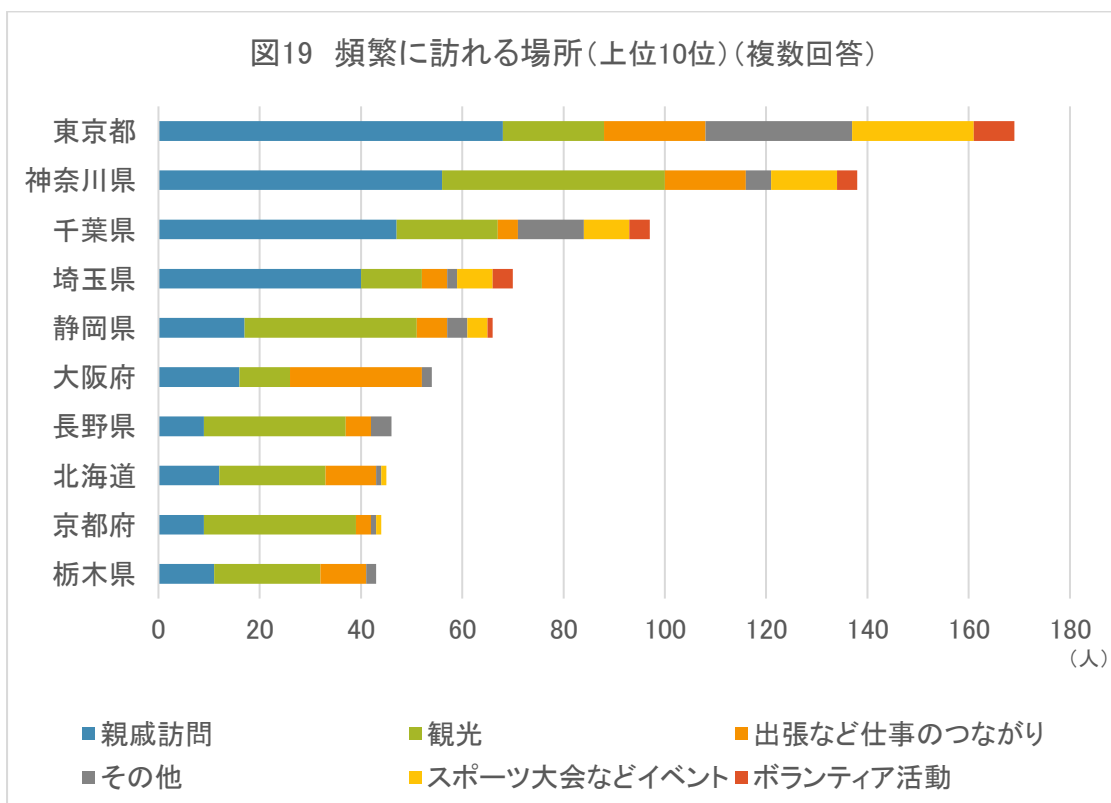
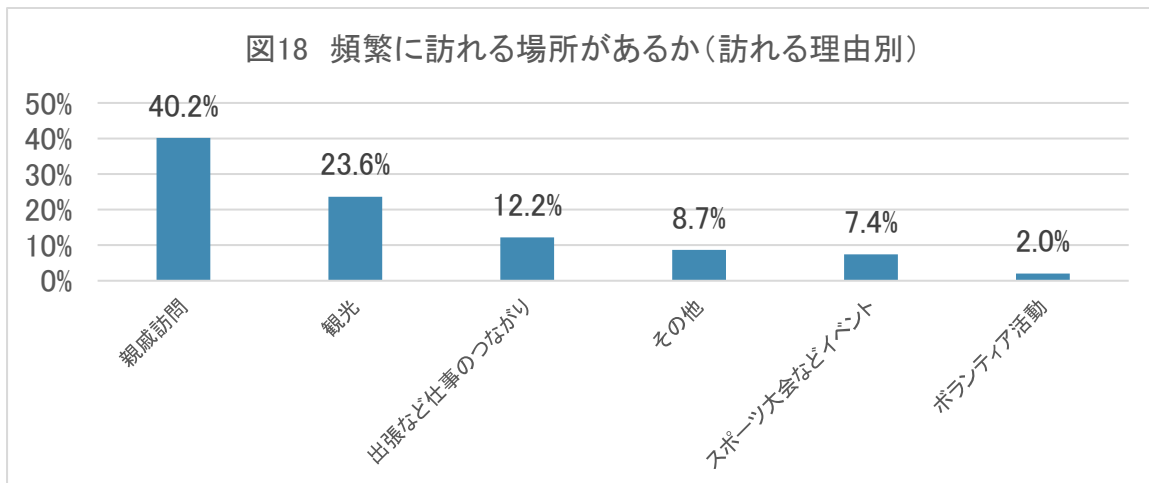
5. 二拠点居住と別荘

東京圏に住む人に「二拠点居住をしていますか」と尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合が 4.0%であった(図 13)。「はい」と回答した人にその場所を聞いたところ、神奈川県が 8 人で最も多く、次いで東京都(7 人)、千葉県(5 人)、埼玉県(5 人)が続いた(図 14)。回答があった二拠点居住地を東京圏、東京圏以外、海外と分けて割合をみると、東京圏が 65.8%、東京圏以外が 23.7%、海外が 10.5%であった(図 15)。また、「別荘をお持ちですか」と尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合が 2.2%であった(図 13)。「はい」と回答した人にその場所を聞いたところ、長野県(7 人)、山梨県(4 人)が続いた(図 16)。回答があった別荘の場所を東京圏、東京圏以外、海外に分けて割合をみると、東京圏が 20.8%、東京圏以外が 75.0%、海外が 4.2%であった(図 17)。



6. 頻繁に訪れる場所

親戚訪問、出張など仕事のつながり、観光、スポーツ大会などイベント、ボランティア活動、その他の理由それぞれについて、東京圏に住む人に「あなたには頻繁に(年に1回以上)訪れる場所がありますか」と聞いたところ、親戚訪問で訪れる場所がある人が40.2%で最も多く、次いで観光(23.6%)、出張など仕事のつながり(12.2%)が続いた(図18)。頻繁に訪れる理由それぞれについて、訪れる場所を聞き、その結果を都道府県別に合計したところ、東京都を挙げた人が169人で最も多く、次いで神奈川県(138人)、千葉県(97人)、埼玉県(70人)と東京圏の都県が続いた。東京圏の都県に次いで、静岡県(66人)、大阪府(54人)、長野県(46人)、北海道(45人)が多かった。訪問の理由をみると、東京圏の都県では、いずれも親戚訪問が最多となっている。上位10位の都道府県のうち、東京圏以外の道府県は、大阪府のみが出張など仕事のつながりで訪れる人が最も多いが、その他の道府県はいずれも観光を理由として訪れる人が最多となっている(図19)。



訪問の理由ごとに、回答があった頻繁に訪れる場所を東京圏、東京圏以外、海外で分けて割合をみると、それぞれ親戚訪問は東京圏が44.4%、東京圏以外が54.9%、海外が0.6%、観光は東京圏が26.2%、東京圏以外が71.9%、海外が1.9%、出張など仕事のつながりは東京圏が20.9%、東京圏以外が74.0%、海外が5.1%、スポーツ大会などイベントは東京圏が68.8%、29.9%、海外が1.3%であった(図20~23)。

図20 親戚訪問(複数回答)

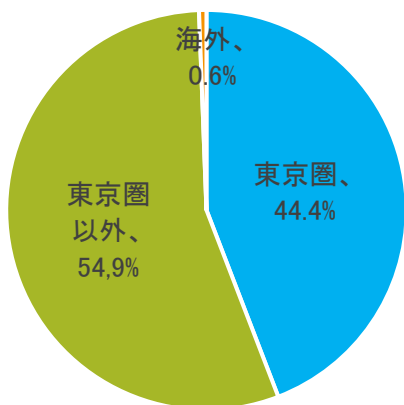


図21 観光(複数回答)

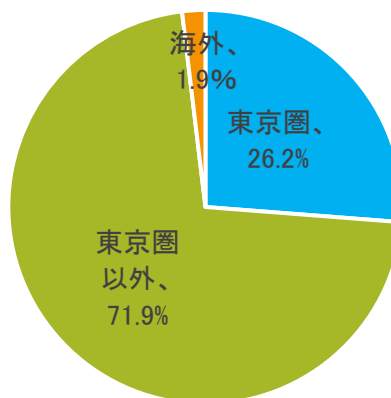


図22 出張など仕事のつながり(複数回答)

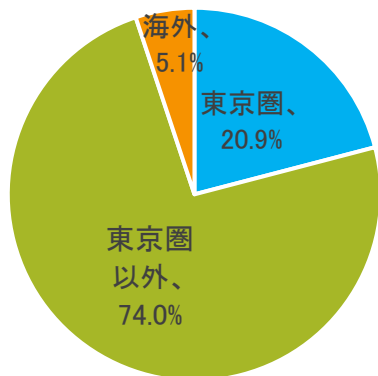
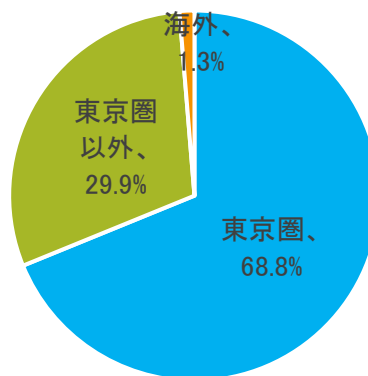
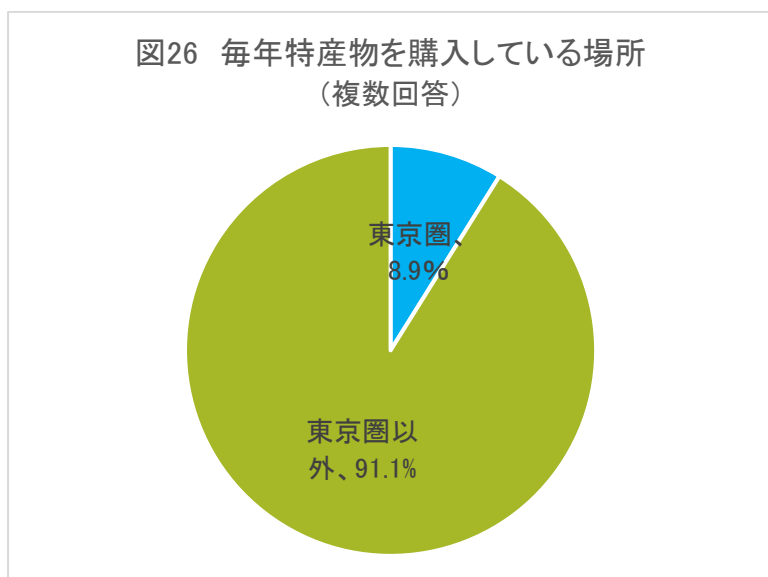
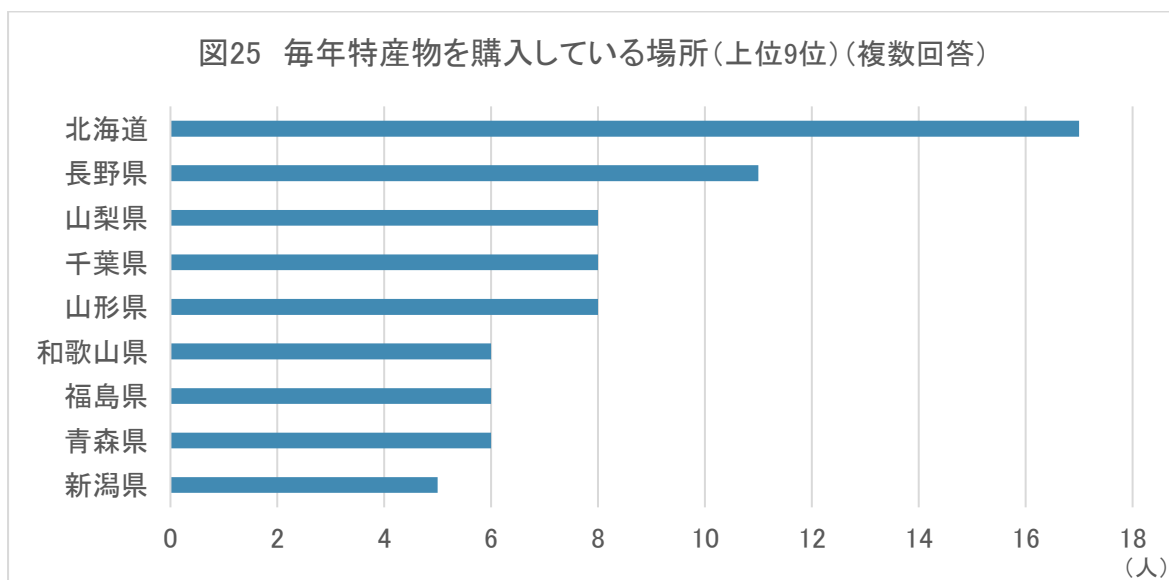
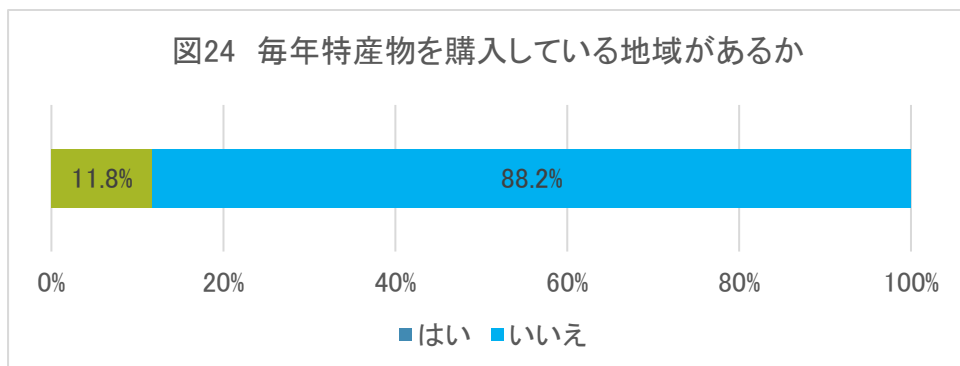


図23 スポーツ大会などイベント(複数回答)



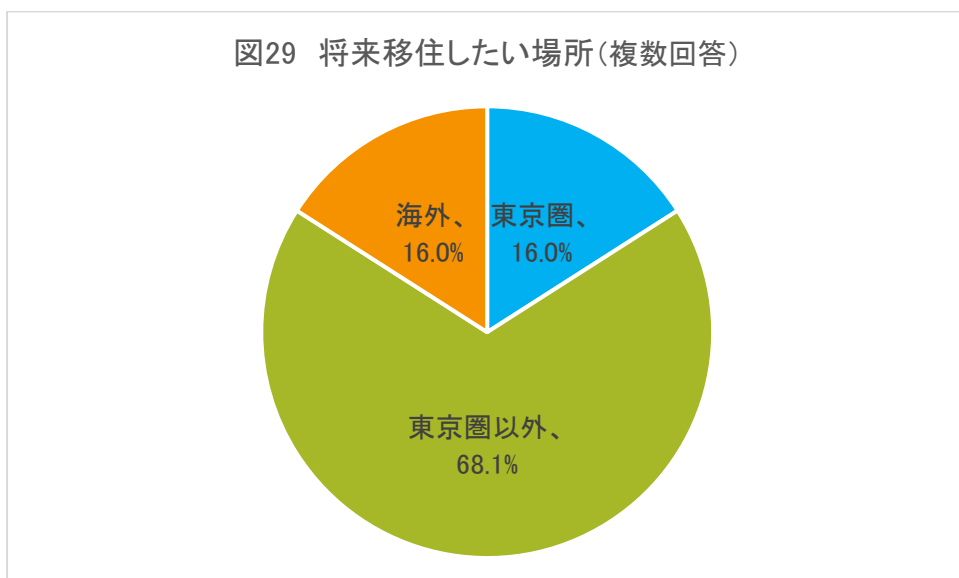
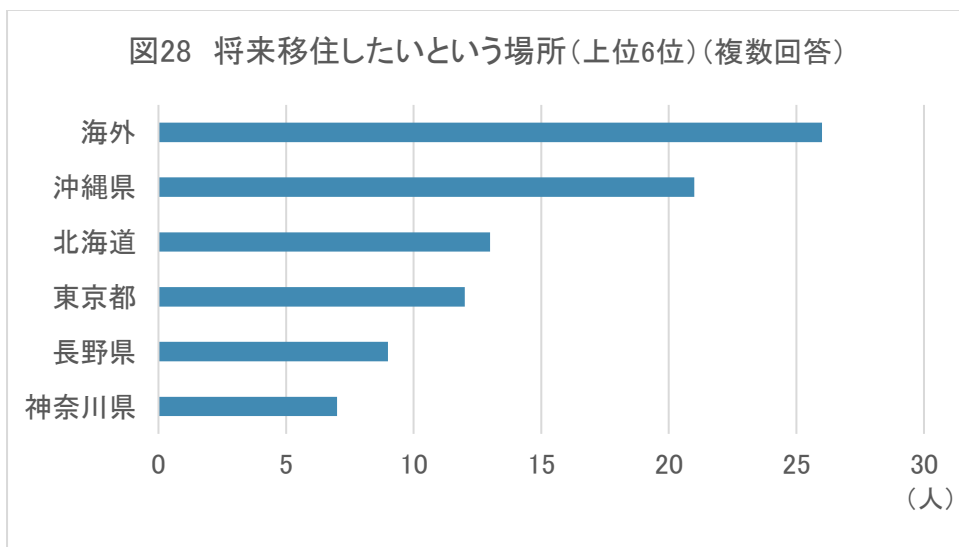
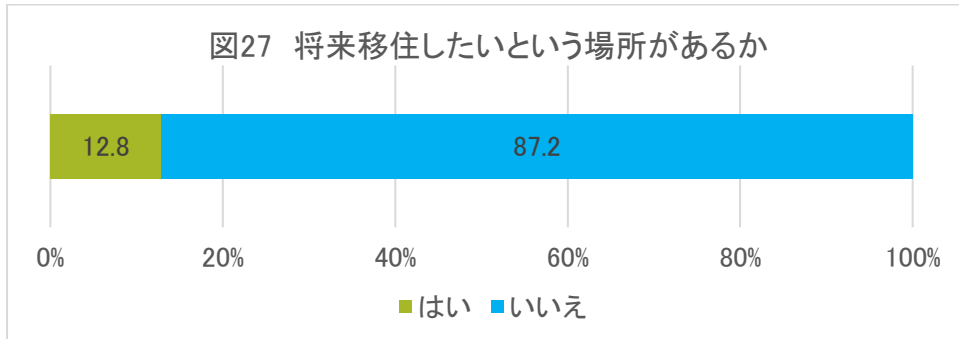
7. 特産物購入

東京圏に住む人に「毎年特産物を購入している地域がありますか」と尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合が11.8%であった(図24)。「はい」と回答した人にその場所を聞いたところ、北海道が17人で最も多く、次いで長野県(11人)、山梨県(8人)、千葉県(8人)、山形県(8人)が続いた(図25)。特産物としては、果物や海産物が多かった。回答があった毎年特産物を購入している場所を東京圏、東京圏以外、海外に分けて割合をみると、東京圏が8.9%、東京圏以外が91.1%、海外が0%であった(図26)。

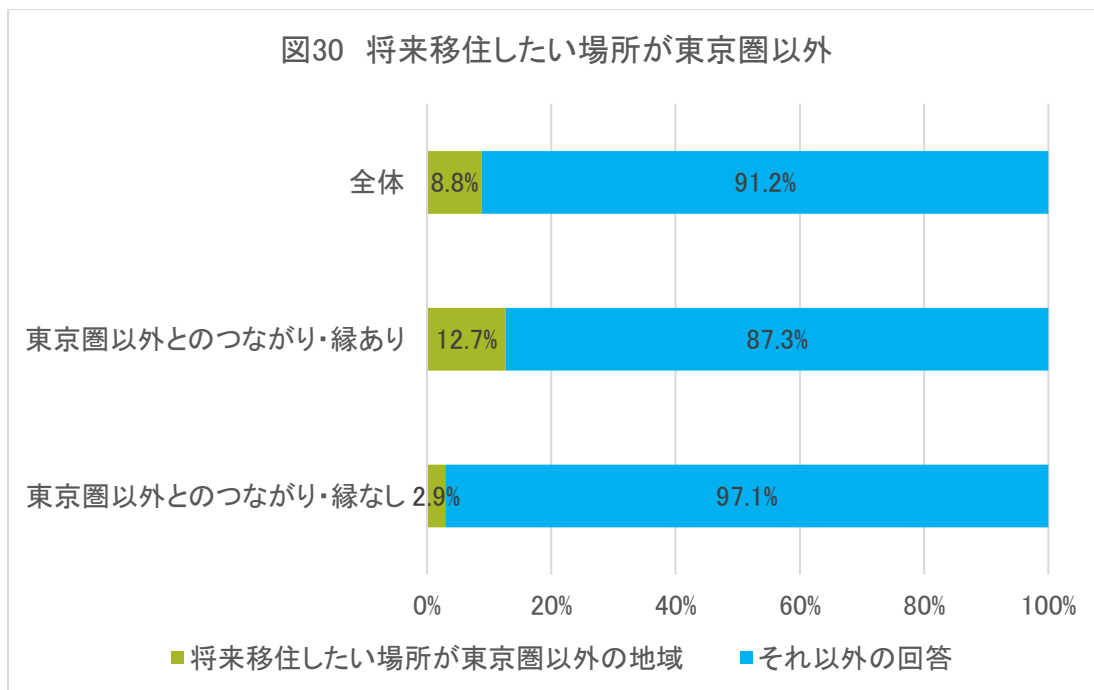


8. 将来移住したい場所

東京圏に住む人に「将来移住したいという場所がありますか」と単なる移住の希望の有無ではなく、移住を希望する具体的な場所の有無について尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合が 12.8%であった(図 27)。「はい」と回答した人にその場所を聞いたところ、海外が 26 人で最も多く、次いで沖縄県(21 人)、北海道(13 人)、東京都(12 人)が続いた(図 28)。回答があった将来移住したい場所を東京圏、東京圏以外、海外に分けて割合をみると、東京圏が 16.0%、東京圏以外が 68.1%、海外が 16.0%であった(図 29)。



将来移住したい場所を東京圏以外の地域と回答した人の割合は全体の8.8%であった。将来移住したい場所を東京圏以外の地域と回答した割合を、東京圏以外の地域とつながり・縁がある人となない人とで比較したところ、つながり・縁がある人は12.7%、つながり・縁がない人は2.9%と1割程度差があった。(図30)。



(参考資料)

第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(令和元年 12 月 20 日)より抜粋

第2章 第2期における施策の方向性

【基本目標2】地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる

2-2 地方とのつながりの構築

(1) 関係人口の創出・拡大

地域への関心や地域との関わりを深める中で築いた地域との縁(関係)が地方移住を決めるきっかけとなることが多いことから、地方移住の裾野拡大等に向けて、特定の地域に継続的に多様な形で関わる関係人口の創出・拡大に取り組む。

その際、地方の暮らしを体験する、地方と都会の暮らしを使い分ける、ボランティア等で定期的に関わるというだけでなく、地域での就業への関心が高まりつつあることを踏まえ、東京などの都市部の人材による地方における事業活動を通じた関わりを拡大・深化させることや、近年の就業形態の多様化を踏まえ、副業・兼業という形で都市部の人材の知識・知見を複数の地域で広く共有・活用する等、関係人口は地域ごと、人材ごとに多様な形態があるものと捉えることが重要である。

継続的な関心や交流を通じ、様々な形で地域を支える人々を受け入れることは、地域を支える担い手の確保そのものであると捉える必要がある。このため、関係人口の創出・拡大に向けて、関係人口になるきっかけづくり・土壌づくりと、受入地域における取組の両面から進める。

